

横浜日曜発明教室

20年のあゆみ

自 昭和43年9月  
至 昭和63年8月



横 浜 発 明 振 興 会

## 目 次

日曜発明教室20周年を迎えて 会長 三橋 良夫 ..... 1

### 日曜発明教室20周年に寄せて

発明教室えの出席20年を顧みて	副会長 筒井 一郎 ..... 2
日曜発明教室20年の歩みと私の履歴書	顧問 荒井 文治 ..... 3
ふれあいのば	理事 寺坂 博 ..... 6
多くを学んだ発明教室	理事 石黒 政治 ..... 7

### 横浜日曜発明教室20年の歩み

I、はじめに （スタートまでの経緯）	8
II、スタート （昭和43年9月）	9
III、実績 （第1回～第240回）	10
IV、褒章受賞者講演会 （昭和52年より開催）	22
V、100回記念行事 （昭和52年12月）	23
VI、マスコミの協力	23
VII、基金の寄附	24
VIII、発表作品の行方	25
IX、あとがき	26

## 日曜発明教室20周年を迎えて



会長 三橋 良夫

10年一昔と言いますが、あっと言う間に二昔立ってしまいました。昭和43年5月16日の総会で日曜発明教室の実施が決定され、準備を進めスタートしたのが9月8日（第2日曜日）でした。

その当時東京では第1・第3日曜日に開催していたので、横浜は第2日曜日とし、東京に遠慮して日曜発明教室という名称をつけました。

初めの2回は横浜開港記念会館で開催したが、参加者の交通の便を考え3回～91回の7年4ヶ月は神奈川県中小企業会館で開催した。初め年間を通して第2日曜日を予約することが難しかったが、世話人の方をはじめ出席者の態度が良いことが評価され2年目からは順調に第2日曜日に開催できるようになった。昭和51年2月に横浜市中小企業指導センターが横浜朝日会館6階に移転し、広い会議室が出来たので92回から今日までこここの会議室で開催している。

この20年間で延10,860人の方が出席し、1,237件のアイデア作品の発表を行い成果を上げております。

現在毎月100人近い方が出席するようになり、会場もどこか広いところへ移転しなければ成らない盛況となりましたが、始めの10年間は月平均35人程度の出席者でした。

何とか出席者と発表者を増やせないものかと、毎回終了後世話人会で検討をした。

そこで考え出されたのがアイデアコンクール（今年で16回目）。年間に発表した作品をもう一度持ち寄り、発表・展示をし毎月出席出来なかつた方のために、せっかく発表しても入賞を逸した発表者にもう一度入賞のチャンスを与えるようにした。又年間6回以上発表した者には最多発表賞の贈呈をするような制度を作り発表者の増大をはかった。

出席者を多くするために皆勤賞・精勤賞を贈呈する制度も設けました。

荒井先生による基礎物理学講座の開講、30分開始を早め、初心者研修を開始こういった努力を先輩会長・副会長・世話人の方々が積み重ねて参りました。

しかし、何と言っても日曜発明教室の内容を充実させ、参加した人々が今日は来てよかったですと満足して帰るようにすれば盛況になると想え、私は昭和56年6月から会長に就任以来熱心な先輩の気風を受け継ぎ、私なりに努力をしてきました。

役員・世話人・会員の皆様のご協力により今日の盛況を招きましたことを心から感謝いたします。

最近は、この会は自分たちのものだから、自分たちでアイデアを出し合いより良くしてゆこう、というムードが高まっております。この皆様の意向を大切にして運営をはかけてゆきたいと考えております。



## 日曜発明教室20周年に寄せて

### 発明教室えの出席20年を顧みて



筒井一郎

気が付いたら、20年経っています。あれは確か昭和43年8月頃だったと思いますが、東京の日曜発明学校で詠さんから「今度、横浜でも日曜発明教室を始めることになったから、筒井君も一度遊びに来て見ないか？」と誘われ、その気になって、毎回出席し、発表したり、話をしたり、好きなようにさせてもらひながら……今ではおこがましくも副会長の座に遇されております。

この永い間には、いろいろな失敗発明を致しましたが、それにも懲りず、毎月この日曜発明教室に出席させていただいた御陰で、だんだん物の見方、考え方が上手になってきて、ソリットマッチ（第7回のトップ賞でした）を始め、各種の変形マッチや小物の日用品・文房具等を次々に考案し、多くの会社に採用されました。

特にソリットマッチは定番商品となって、権利の切れてしまった今でもどんどん注文が入っていて、出荷総数は5000万個近くになっています。（スポンサーとの信頼関係で、ローヤリティーは只今でも頂戴しております）

勿論、私は今でも小物専門に考案を続けております。

これも日曜発明教室に欠かさず出席して、横浜の皆さんからいろいろと教えて戴いているお陰だと、感謝している次第です。

何だか自分の自慢話をしてているようだが……結局のところ、私の永年の体験から得た

アイデア成功のコツは、

1. 日曜発明教室に出席することです。

出来るだけ教室に出席して、先輩や同志の発表する作品を見て、皆の意見を聞いたり、自分の考えを話したりして、発明考案のタネを仕入れ、それを基にしていろいろのアイデアを出すのが良いと思います。

2. アイデア開発のコツは、まづヒントを掴むことです。

そして、そのヒントを基にして、いろいろと考えることです。始めのうちは、ピント外でもかまいません。

一生懸命考える努力をする事が大切です。

一つや二つのアイデアが駄目だからといって、止めてしまってはいけません。一つの物をいろいろな角度から見て徹底的にアイデアを出して見ることです。

3. 自分の力以上のものには、手を出さない。

自分の技術以上のものに挑戦するのは、一見勇ましく見えますが、これには時間と必要以上の努力が必要であって、罷り間違えれば、命取りに終わる率が多いからです。

しかし、自分の力量以下の考案ならば、割合簡単に出来て、旨く行けば社会のためになり、金儲にもつながります。

要は、自分の実力よりも程度の低い技術で発明考案をして、これをパテントで独占することが、アイデアを生かす一番良い方法ではないかと思います。

とにかく、発明考案を志す人は

1. 日曜発明教室にきて、2. ヒントを掴み

3. 自分の力に合った物……を、考えようではありませんか！

(所沢市上山口 1901-8)

横浜発明振興会 副会長

## 日曜発明教室20周年に寄せて

### 日曜発明教室20年の歩みと私の履歴書

— 責務の一部を果す —



荒井文治

歴史についてギリシャの哲人Aは過去を記述するものであると言った。Bは過去を記述するだけでなく現在を考察することが大切であると述べた。ところがCは過去を記し、現在を考えるだけでは不十分で、さらに将来を指すものを捉えることこそ大切なことがあると喝破したと伝えられている。しかしこれは余程連達の士でないと不可能なことである。この考え方は誠に大切なことで、史学に限らず、どのような仕事を成す上でも心すべきで、越し方行く末を伺うこの思想は適用されるべきであろう。

私は横浜で生まれ（1913年、今の神奈川区の東のはずれ）旧東海道の沿道で育ち、旧制横浜高等工業学校 機械工学科を1935年春卒業した。当時の校長 煙洲・鈴木達治先生の教えに啓発されその思想に共鳴した。在学中は勿論、卒業後先生が逝去されてからも今に至る迄、先生の言動は鮮やかな印象として残っている。

先生は旧制帝国大学を嫌い、バカは大学へ行って落をつけ給え。うちの学校では大学以上の教授を何人もお願ひしてあるのだから夫々の教授について勉強し研究を進め給え！

私が東京工大やその他の旧制高工を受け入れてくれる大学に行かなかつた大きな理由の一つもこの辺りにあった。

鈴木校長の教育方針はまことに独特で文部省の画一主義とは全く相反していた。先生曰く、①無試験、②無採点、③無賞罰を三無主義と称し、また名教自然を標榜された。

私は2流旧制中学でいつもトップを切っており、そのうえ5年間無遅刻・無欠席で、卒業時には抱え切れない賞を頂いた。それがどんなに努力しても本校では賞は与えられないのだから不満であると共にまことに奇異に感じたものであった。恩師の一人T教授は曰く、煙洲さんの考え方は老子の虚無思想から来ているのではないか。

さて当時あった5学科の中で無試験は私たち機械工学科では全く適用されずMIT（アメリカのマサチューセッツ工科大学）仕込みのE教授の授業は毎週テストと称し筆記試験が行われた。これは2時間／週の継続授業中1時間はテキストの原書（英文）に関しノルマの頁数（約10頁）中の質問を受け教授は之に対する回答を与え、残りの1時間はドイツ半紙半裁を2つに折った白紙を配り、テキスト中の指定された問題を解かされた。お陰で英文も答案用紙もこわくなってしまった。この事実を級代表数名で煙洲先生宅へ参上して訴えたところ、名答であっさりかわされてしまった。

私は1935年春目出度く卒業、直ちに物理学教室の恩師、理博 池内 本（はじめ）教授の助手になった。機械出であり乍ら物理を選んだのは、工学より理学においてPhilosophy（フィロソフィ真理を知ることを愛する心）を見たからである。

1940年航空工学科の増設に伴い、助教授に昇任、この間コスミックレイ（Cosmic rays：宇宙線——他の天体から地

球に降り注ぐ強烈な放射線） 平均1秒間に1本/cm<sup>2</sup>の観測（ウイルソン霧箱使用——この霧箱も私が改良を試みた）から、好むと好まざると拘らず戦時研究（特種硬質鋼の摩耗状態の研究）に切り換えられた。

戦争が熾烈になるにつれ学徒動員先へ泊まり込みで出向講義が多くなり研究どころではなくなった。かくして1945年敗戦。大戦末期に工高から工専に名称が変わり、更に学制改革で横浜国立大学助手に移行し基礎学科は全て学芸学部所属となった。講師に昇任、学位（理博）を頂き助教授となり年が若すぎると言う理由で8年間据え置かれ、教授に昇格10年後の1978年4月1日付で目出度く定年退官した。

この間の研究（タイトロアルバイト）は恩師池内教授の遺して行かれたフランス留学土産の250000Vの高電圧装置で電子を加速し、これを写真感光材料に衝突させて現れる映像に関する15編の論文であった。更にこの仕事は定年退官迄続けた。

以上が私の履歴書である。

今は昔20年前日曜発明教室発足の又20年以上も前の本会と私の関わり合いを記述しておきたい。それは第Ⅱ次世界大戦もわが国の敗戦の色が見え始めた頃、野毛山にあった震災記念館の一室に居られた市民生部の中道等氏からお呼びがかかった。故朝比奈 貞一理博、同僚の友成教授等も出席しておられ戦時研究の1つのテーマとして人間に代わって田・畑を耕す機械を考える研究の助成金を頂いた。之が私と市との今の会の前身の会（発明協会神奈川県支部横浜市部会）とのつながりの出来た始まりである。

敗戦後半井 清市長が会長となって横浜発明懇話会が発足した。

（発足間も無く半井 清市長がバージとな

ってしまったので、会長は加藤清右衛門氏に変わった）会長の依頼で、私は永久運動が物理的に不可能であることを解説した。

会場は当時市電の弘明寺終点の前にあった横浜国立大学工学部の前身である横浜工業高等学校（戦時中横浜工専と名称変更）本館正面。1F中央の教官大会議室であった。種本は物理の図書室にあったサー・ウイリアム・コングレス著の英書で沢山の図が例示されていたその時に配布したプリントは今も拙宅にある。

そのご原爆や放射線計測の話もした記憶がある。当時の事務局は安藤正美氏が担当（ご健在）されていた。

（注）その後この会は消滅していたが、半井清氏が公選で市長に就任、昭和36年1月、加藤清右衛門氏を会長として復活した。

以前からの御縁で顧問に就任。

昭和56年創立20周年を期に横浜発明振興会と改称。

私は定年退官2年後の夏、死にかかる大病（敗血症）をしたが運が強かったためか70日の入院（市大病院）で挽回することが出来た。翌年の新春は20才位い若返った爽やかな気分であった。1年間様子を見て1981年9月13日（第2日曜日）例会から初代会長以来の約束を果たそうと決め、発明家の皆様に電気・機械の基礎物理の講義を始めた。

狙いは次元の高い発明が出来るために……。43年間も学生を相手にしていたので反応はよく判った。

一之瀬事務局長にお願いして私の話を聞きに来て下さる方の年齢・職業・学歴等についてアンケートを配り調べて頂いた。その結果最も私を驚かせたことは文科系出身の方が可なり居られたことであつた。年齢層は20代から80代に及びそのグラフはカルデラ外輪山の断面のように60代に山があり裾野は長く反対側は急傾斜

をしていることが判った。そこで講義は講釈に切替え聴講者の顔を見乍らが話を進めた。話は枝から枝にと花が咲き私も面白く楽しみ乍がら進め今に至っている。

私は社会奉仕・感謝報恩に徹する心掛けで手弁当でお勤めを果たした。代々の会長との約束・期待に答えたつもりである。煙洲校長の思い邪(よほ)なし(これは詩経中の“詩3000, 一言以て之をおおえば思ひ邪なしから由来する)の心境でまことに爽快である。

しかし私の話を聞かれた皆さんはどの程度ご理解頂けたか? 恐らく右から左りに役立つような話しは極めて少なかったと思うのである。その代わりご理解いただけた程度に応じそれだけ物理的に表現すればボテンシャルが高まり、それだけ次元が高くなったと私は信じて疑わない。

本年9月11日は偶々スイス・フランスに出向して居り、会長の名においてお招き頂き感謝状・記念品贈呈式の晴れの日に出席出来ず失礼した。その代わり1ヶ月遅れて10月9日の例会当日有難く頂戴した。

感謝状を拝読し誠に面映い感じである。記念品は梅型 洗朱の鉢で直径22cmの美事な品であった。有難く使わせて頂く。

今この国が繁栄している原因は一般国民が足ることを知り、勤勉・努力・感謝報恩を心掛けている結果であると信じている。

私も足腰の立つかぎり愉快に奮労努力を続けたい。

<理博> 元横浜国立大学教授  
日本物理学会終身会員(54A)  
1988(昭和63)年11月11日記



## 日曜発明教室20周年に寄せて

### 「ふれあいの場」



寺坂 博

この八月、日曜発明教室が発足して満二十周年を迎えるにあたり、盛大に講演会やパーティー等の行事が行われ、発明や考案に対する認識を新たにすると共に、私にはまたとない「ふれあいの場」であり大勢の先生方・先輩・仲間が和気あいあいと月に一度朝日会館の会場に元気な姿を見せて下さり、第二日曜日は心が弾む一日です。

二十年前の私を振り返って見ますと、発明や考案とはまったく縁のない存在で川柳の作句に打ち込んでおりました。この時も横浜川柳懇話会があり「ふれあいの場」ではありましたが、作品の発表は選者による入選句だけで宿題（あらかじめ題が出されている）と席題（当日題が発表され会場で作句する）を出句する二十数名の集まりで、ベテランの句に感嘆し自作の未熟さにしんぎんするばかりでした。

ある年の京浜川柳大会で、当時川柳界の大御所といわれた故川上三太郎先生を紹介して下さった中野懇窓師も故人となられ、私も川柳からだんだん遠ざかっていました。

ある川柳誌に拙句が三太郎先生選の巻頭句に入選

“ワイシャツの白さも 中年の孤独です” や  
“町工場 連休のない 音がする” が懐かしい時代でした。

その当時大先輩の方々が集まり、日曜発明教室が生まれた、と事務局長の一之瀬さんが話しておられましたが、やはり二十人前後の集まりだったとお聞きしました。発明考案も川柳もヒラメキし発想・アイデアが大きな役割をしていますが、根本的に大きな差があります。私も職業上、ここが不便だ・使いにくいと思う箇所が多くあり、研究は怠りなく試作実験を繰り返していました。そんなある日、ちょっとした道具を作り試用していると、悪友たちに「これはいい、特許をとれ」などと煽てられ、友人に特許事務所を紹介されたのが4年まるのことでした。

出願にかかる「費用が十五万円位いだが〇〇の紹介だから十二万円で」と電話がありました。海のものとも山のものとも解らない、道楽にしては金がかかり過ぎるので少しの間考えさせて下さい、と断り発明学会へ足を運んだのでした。自分で出願できると指導され「横浜にも発明教室がありますよ、トップ賞をもらえる位に成って下さい」と励まされました。

六十年二月に初めて出席、「素晴らしい会だなーここなら勉強させてもらえる」と三月の会に「ストップ付門扉掛金具」を発表したところ、いきなり賞を戴き信じられない位でした。続いて四月のコンクールで優秀賞、県発明考案展で知事奨励賞を受け以来入会して四年足らずの私が、理事の大役を仰せつかり、私なりに横浜発明振興会の発展のため、裏方に徹し、皆さんとの「ふれあいの場」を大切にして、二十五周年・三十周年を目指して微力を尽くしたいと思います。

(横浜市神奈川区羽沢町1695)

横浜発明振興会 理事

## 日曜発明教室20周年に寄せて

### 多くを学んだ発明教室



石黒政治

日曜発明教室開設20周年に因んで、日曜発明教室の思い出などを、という事でしたが、創設のころについては、会からの帰り道、先輩からの話の中で、当時をうかがい知る程度で定かではありません。

私は第154回のアイデアブックを手にして教室(556-6-14)に出たのが初めてで、以来続けて出席させて頂いております。

「知は力なり。」とイギリスのフランシス・ベーコンの言葉を引用し、「知っている。」を1とし、「知らない。」を0とするなら、その比は無限大であると、数学的表現で、新知識の習得の必要性を説かれた荒井先生、物理学講座に統いて「新素材について。」の講義は、原点にかえって物を見つめるチャンスになりました。

プラスチックの型の設計をし、発注から製品を作り販売することを、実際に御自身でしている三橋会長からは、プラスチックについて初歩から具体的に材料費や工賃等を含めた製品作りの話を聞く機会を得たことも、大いに勉強になりました。

長い間の実地で、成功をかちとった筒井副会長の話の中に、「見る。」「頭に焼きつける。」「忘れる。」を三要素とする「捨目発想法」も、「発明の試作に金をかけない。」「他人の手を借りない。」「思いついたら糊とハサミでどこでも作る。」「まとまつた

ら自分で出願し。」「企業に実施権を売り。」「自分で商品化しない。」御自身の発明人生から生まれた言葉には、聞いていて重みを感じました。

「今の世の中は、便利そうに見えても、不便なことがある。そんな不便を、一つでもなくしたい。」それが町のエジソンと言われる日比野純一氏の願いとか、また、「発明の第一歩は、不便を感じることだ。」とも言われました。近くでお目にかかったことはありませんがお人柄がうかがわれるような気がしました。

問題意識を持って、来場した皆の人達にも長い間には、マンネリズムに陥ったこと也有ったでしょう、それに涼風を吹き込んでくれたのは、教室での実演であり実習がありました。

プラキャストシリーズの実演や「はんだ付け」実験教室など、鮮やかに記憶の中になります。

試作の段階では、必ずしも手慣れた材料や機具を使うとは限りません、説明書を見ながら覚つかない手付きですることもあるのです。専門家の手ほどきや手法を見学できました事は、素晴らしいと思いました。またこんな機会のあることを期待しています。

会長を始め、事務長、講師の先生方、また講師の招へいに尽力下さった方々に感謝しつゝ、会の明日への飛躍を祈念します。

(西区御所山50)

横浜発明振興会 監事

## 横浜日曜発明教室20年の歩み

### I. はじめに

横浜発明振興会は昭和36年1月に横浜発明懇話会という名称で発会した。

昭和56年創立20周年を契機に横浜発明振興会と改称した。この間発明振興に関する事業を行ってきたが、会員の増加、発明品の評価機関の必要性に迫られていた。

#### 1. 生い立ち

理事であった詠氏が昭和42年始め東京の実情を調べた結果横浜・川崎からの出席者が多いことが判り横浜での日曜発明教室開催を提唱した。

#### ◆昭和42年8月23日理事会開催

- (1) 会場の選定
- (2) 東京と異なった特色を出すには
- (3) 実施のための組織
- (4) 実施時期

などについて研究を行った。

#### ◆昭和43年5月18日総会で始業計画が承認された。

#### 2. 運営

##### ◆昭和43年7月13日理事・世話人会

実施に当たり会員の中から世話人を募ったところ5名の方から申し出でがあったので、理事全員と合同で実施について次の協議を行つた。

- (1) 実施要綱(2) 具体的実施方法(3) 役員  
世話人代表 加藤会長  
実施委員長 詠理事  
世話人理事全員  
山田義一 進藤健藏 堀田健藏  
山崎一男 三原正雄

#### 3. 名称

東京が日曜発明学校となっているので、同じ名称ではでは申し訳ないとの考えで、横浜日曜発明教室とした。

### ◇開催PR

実施要綱・作品発表申込用紙を印刷、会員東京参加者・発明相談来所者・等に750通発送。8/15

センターニュース8月10日号・神奈川新聞・日刊工業新聞・読売新聞8/20掲載・市民広報9/1掲載。



### ◇横浜市・発明協会県支部・日刊工業新聞 発明学会の後援承認。

◇会員弁理士 木脇・釣本・岡本・堀田・  
大貫先生へ協力依頼。

#### 4. 開催日

東京が第1・3日曜日なので、カチ合はないよう 第2日曜日午後1時～5時開催とした。今日まで会場の都合で第8・32・33回だけは別の日曜日に行ったが、後の237回は第2日曜日を貫いている。

## 5. 実施内容

- (1) アイデアの発表とディスカッション  
(投票で優秀賞贈呈)
- (2) 発明相談弁理士
- (3) 実施化指導役員
- (4) 研究会・講習会

## 6. 会 費

一般	¥100
会員	¥ 80
小中学生	¥ 50
テキスト	(¥50 ~100)

## 7. 会 場

日曜日に借りられる会場を捜したところ、横浜開港記念会館で実施することとした。



### [コメント]

昭和36年横浜発明振興会が発会以来横浜市の職員である私が兼務で事務局を担当して来た。私の本職は中小企業診断員（現在は診断士）で昭和38年当時既に資格は持っていたが、1年間勉強に行かせて貰った。

1年たってもどってみると、組織が変わり発明奨励の事業は商工課が行い、私の担当ではなくなっていたが、横浜発明振興会の事務局だけは横浜市中小企業指導センターに移り私の担当となっていた。

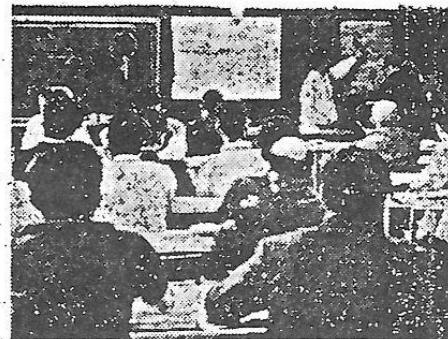
現職の仕事の上に毎月きまって日曜発明教室を実施するのは大変である。えらいことに成ってしまうぞという考えが申し訳ないがスタートを遅らせた。

## II. スタート

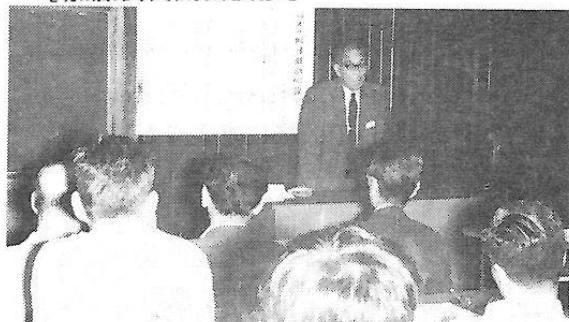
昭和43年9月8日午後1時から横浜開港記念会館で第1回目開催。

PRが行き届いていたせいか、53名が出席、11件の発明考案が発表され、又釣本・岡本・堀田弁理士による6件の発明相談がおこなわれた。（6件）

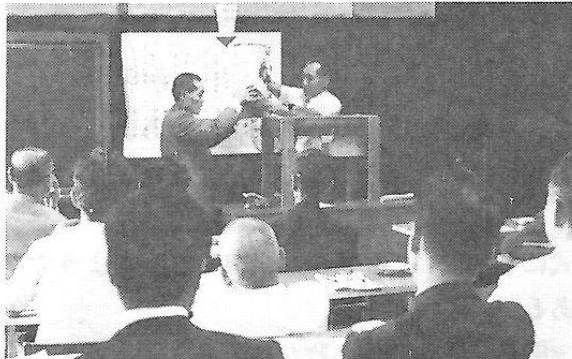
「日刊工業新聞9月10日の記事」



〔加藤会長開会挨拶〕



〔作品発表〕



### III. 実績

#### 1. 会場

第1回・2回	横浜開港記念会館
第3回～第91回 (7年4ヶ月)	神奈川県中小企業会館
第92回～	横浜朝日会館6階 横浜市中小企業指導センター会議室

#### [コメント]

出席者に少しでも足の便が良いところということで、第3回から桜木町駅に近い尾上町の神奈川県中小企業会館に変更した。

一年を通して、第2日曜日に予約することが初めは困難であった。第8回(第1日曜日)・第32回・第33回(第4日曜日)に実施しがるをえなかつたが、出席する会員の態度、役員の方々の努力による後片付け等、他の団体と比べ非常に良いことが会館側に好感を持たれこの3回以外は第2日曜日が予約出来るようになり7年4ヶ月の間お世話になりました。

会員の方には便利であったが、事務局は大変で、早めに出勤し、開設に必要な器材を持ちタクシーを拾って会場に誰よりも早く着かなければならない。

日曜日の日本大通りは、時間帯によってはタクシーがなかなか来なくイライラしたり、器材によっては乗車拒否をされ頭に来たこと也有った。

今日は気持ちのいい運転手であったという記憶は一つも残っていない。

入り口の看板や投票箱を折り畳みにしたがどうもこの看板が祟っていたようだ。

その後小林甲蔵さんのご厚意でパイプ組立式にして戴いてから少しこは良くなつたようである。

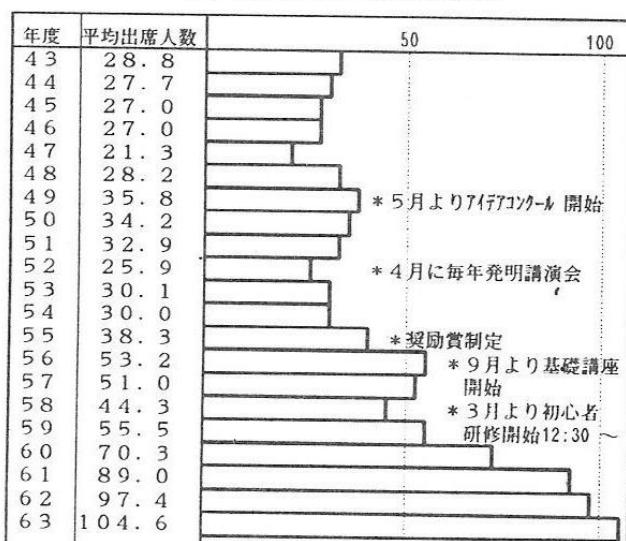
開設してから忘れ物が有ると大変、度々で懲りてからは、チェックシートを作り、前日

にトランクにつめて置くような努力をしなければならなかつた。

昭和51年2月横浜市中小企業指導センターが横浜朝日会館6階に移転し、立派な会議室が出来たので、4月の第92回から此處で開催するようになり、事務局の苦労がなくなつた。

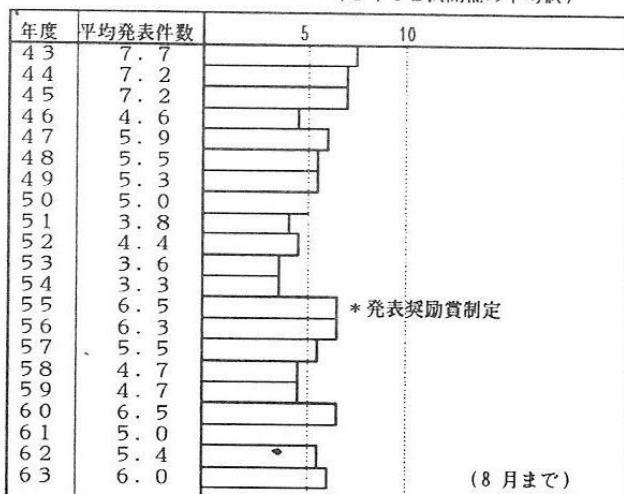
#### 2. 開催実績

日曜発明教室出席実績表



日曜発明教室実績表

(1年12回開催の平均値)



## 〔作品発表〕



## 〔コメント〕

### § 世話人会

毎回終了後世話人会を開いて反省、次回何を実施するか検討している。

第91回までは、会場周辺の喫茶店で行っていた。会場が横浜市中小企業指導センターになってからは、チョットしたお茶菓子をつまみながら行っているが、時には会員からの差し入れがあることもあった。

この世話人会が、日曜発明教室の運営に非常に役立ってきた。今日のように隆盛になったのは、この世話人会から生まれたアイデアを実施してきたからである。

### § 出席者を多くしたい。

第1回は53名と多かったが段々少なくなり、実績表の通り昭和46年度までは平均27人となり、更に昭和47年度は平均21人となってしまった。

最低13人ということもあり、毎月開催するよりは、開催に当たってはPRを徹底し、年何回かにしたらどうか?と世話人会に提案したことがあった。東京は10年のキャリアがある。横浜も10年辛抱しょう。ということで否決された。

### § 作品の発表を多くしたい。

当初日曜発明教室は発明考案作品の発表の場つくりが主体であった。

昭和45年度までは、多い月は12件も発表があり、平均7件だったが、昭和46年度になって平均4.6件と低下し、発表申し込み0の月が出るようになった。

開催日直前になると、何時も事務局は胃が痛くなる。

会長・副会長・筒井さん等に電話してなんとかして戴くことがしばしば有った。

日曜発明教室はたとえ作品発表が0であっても、出席した方に満足して貰う方策は無いものかと世話人会に訴えた。

### § 研究会併設

出席者・発表者を多くしたいという方策として、14回(44-10-12)「新製品に強くなろう」伊藤甫氏、27回(45-11-8)「成功する発明・失敗する発明」清水重一氏、等実施したが、46年度第32回からは毎回内部の方を講師とし時には外部の講師を招聘し研究会を行うようにした。

昭和49年から、発明学会平井氏のご厚意で褒章くらぶ会員の発明講演会を科学技術週間の行事として実施、これと同じくアイデアコンクールの開催。

昭和55年度から、出席・発表奨励賞の制定。昭和56年9月より荒井文治先生による基礎・電気・機械の物理学講座開講、昭和58年3月よりと初心者研修を開始、このため開始時間を12時30分とした。

これらの新しい施策が実を結び、昭和55年度から出席者は平均50人を越すようになり、昭和60年度からは急上昇をした。

### 3. 日曜発明教室発表作品展示コンクール (アイデアコンクール)

毎月作品の発表終了後、出席者の投票でトップに成った作品に優秀賞として盾と賞状を贈呈しているが、毎月の作品内容にバラツキがあるため、入賞を逸した方のために、毎月出席できなかった方のために、昭和49年度から毎年年度始めに日曜発明教室展示コンクール(アイデアコンクール)を実施している。

これは前年度中に発表した作品をもう一度持ち寄り会場前の廊下に作られた展示場に展示し、1人3分ぐらいで説明を行い、出席者の投票で最優秀賞・優秀賞・優良賞を決定、出品者には全員参加賞を贈呈するものです。

#### [実績]

回	年月日	出品数	人 数	年度中 発表数
1	49-5-12	10	8	46
2	50-5-11	17	12	58
3	51-5-9	21	13	55
4	52-4-10	19	13	42
5	53-4-9	25	14	53
6	54-4-9	26	20	44
7	55-4-13	24	16	40
8	56-4-12	26	18	77
9	57-4-11	25	18	75
10	58-4-10	21	14	61
11	59-4-8	14	13	52
12	60-4-14	22	17	47
13	61-4-13	20	17	65
14	62-4-12	23	19	56
15	63-4-10	15	13	59
合 計		308	225	830
平 均		20.5	15.0	55.3

#### [最近の賞品]



#### [表彰式]



#### 「コメント」

開始から3回までは準備の都合で5月に実施して来たが、4回から褒章受賞者講演会と合せるため、4月に実施するようにしました。

第1回は最優秀賞・優秀賞・優良賞各1点に盾を贈呈し、2回からは、盾の他に賞金と参加賞を贈呈するようになり、6回から優良賞を2点に増やし、9回から賞金を廃止し賞品をトロフィーとしました。

11回から優秀賞2点・優良賞5点に増やし、今日に至っているが、毎回終了後の世話人会で状況を検討して決めてきました。

出品点数が落ち込むとこのコンクールを続けるかどうか迷いが出ますが、15年続いており、14回からの入賞作品はNHKギャラリーでおこなわれる暮らしの発明展(小酒井氏の尽力)に出品するようになりました。

[入賞者・作品名]

第1回 (49-5-12)

\*最優秀賞

ワンタッチ紙挟み 石井一市

\*優秀賞

長短兼用スイッチ具 佐々木 茂

\*優良賞

隅の叩ける蝶叩き 石井一市

第2回 (50-5-11)

\*最優秀賞

本・ノートノページ押え 方喰保平

\*優秀賞

安全灰皿 石井一市

\*優良賞

浴槽の浮遊物除去装置 金井住夫

第3回 (51-5-9)

\*最優秀賞

自動点滅器内臓ソケット 岩崎臣男

\*優秀賞

筆記具 三橋良夫

\*優良賞

戸の外しレバープラグ 鬼沢昭

第4回 (52-4-10)

\*最優秀賞

自動電気掃除機 河野潔

\*優秀賞

パンチ付きステープラー 三橋良夫

\*優良賞

回転円盤コンパス器 小倉光雄

第5回 (53-4-9)

\*最優秀賞

パンチホッキス 三橋良夫

\*優秀賞

防水防爆ソケット 木藤素光

\*優良賞

千切付き野菜皮むき器 石井一市

第6回 (54-4-82)

\*最優秀賞

L Pガストーチランプ 木藤素光

\*優秀賞

点滴監視報知器 河野潔

\*優良賞

隅木勾配定規 星野米男

小型気泡揚水器 関根和美

第7回 (55-4-13)

\*最優秀賞

風呂釜洗浄用具 桑井旭

\*優秀賞

半勾配定規 星野米男

\*優良賞

突切バイト支持緊定具 越田逸之助

厚地物早期乾燥装置 田村清

第8回 (56-4-12)

\*最優秀賞

創作パターン・模様押具 田中美佐枝

\*優秀賞

隅木及び推に直接墨付け 星野米男

出来的延尺

\*優良賞

折れても抜き取り出来る 鈴木英雄

タップ

屑入れ付きティッシュペー 筒井一郎

パー

第9回 (57-4-11)

\*最優秀賞

蛍光灯の点滅装置 橋本健

\*優秀賞

立体コンパス 小野山利一

\*優良賞

ブラインド 牧平担

曲線用ファスナー 栗谷秀子

第10回 (58-4-10)

\* 最優秀賞

鱗の飛ばない鱗剥ぎ器 長尾 繁

\* 優秀賞

モーターの変速機 橋本 健

\* 優良賞

対地震・ガス弁遮断装置 山崎 秋次郎

飛び出す容器 筒井 一郎

第11回 (59-4-10)

\* 最優秀賞

方円定規 星野 米男

\* 優秀賞

鲤登り吹き流し装置 藤村 勇治

格納袋付き折り畳み帽子 天野 様介

\* 優良賞

メモ用カードケース 筒井 一郎

蒸気温水還元方法 田村 清

文線身体回転装置 北浜 清

最大値計測用ばね秤 山下 鑑

第12回 (60-4-14)

\* 最優秀賞

円型製図版 岡本 義雄

\* 優秀賞

焼き物器と同金物 成宮 庄次郎

トップ付き門扉掛金具 寺坂 博

\* 優良賞

まくら 筒井 一郎

高周波磁気治療器 土川 敦三

煙製機 山本 光男

イヤホーンホルダー 白根 春夫

成人病克服食事計算機 山下 薫

第13回 (61-4-13)

\* 最優秀賞

包装容器B 筒井 一郎

\* 優秀賞

上方に閉じる洋傘 中井 利

新生児救護ボート 川添 佐知子

\* 優良賞

冷温蔵庫

茂木 敏雄

自転する地球儀

永井 久雄

家具引戸ストッパー

井上 芳夫

洗浄水供給装置

清水 正一

小鳥の給餌給水器

山田 敏六

第14回 (62-4-12)

\* 最優秀賞

水中音声会話装置

上谷 成樹

\* 優秀賞

片手で開閉できる洋傘

永井 久雄

無煙魚焼器

成宮 庄次郎

\* 優良賞

正座用椅子「ノンシビレ」

桑本 真佐喜

伸び縮みするスプーン

渡辺 昌子

二色電気浮き

石田 嘉彦

携帯チョーク入れ

伊藤 宗一

海藻麺類の製法

斎藤 槟幹夫

第15回 (63-4-10)

\* 最優秀賞

取り口が垂れ下がる

浦崎 恒吉

ペーパーホルダーの軸

\* 優秀賞

背負い鞄の背負い紐

林田 繁雄

寝たきり痴呆老人のおむつ

土井 和子

カバー取り外し防止装置

\* 優良賞

ステッキチェア

岡本 義雄

複合鉛筆削り器

青柳 三好

エアカーテン付き露結

鈴木 龍三

防止型バックミラー

ファイル用綴具

安田 善三

エンジンの廃油装置

工藤 五一

第1回～第9回までは会議室後方に展示したが出席者が増加し会場が狭くなってきたので、第10回 (58-4-10)より廊下に展示するようにし今日に及んでいる。

#### 4. 出席・発表奨励賞の制定

昭和54年度までは出席者が月平均30人前後で一向に多くなず、又発表件数も最低と成ったので、昭和55年度から出席奨励賞と発表奨励賞を制定した。

世話人会で検討した結果、全回出席を皆勤賞（盾）・9回～11回までを精勤賞（賞品）とし、年6回以上発表者には最多発表賞（トロフィー）を贈呈することとした。

##### [実績]

年度	皆勤賞	精勤賞	発表賞
55	5	7	2
56	6	17	4
57	5	10	2
58	6	16	1
59	9	15	2
60	11	20	2
61	17	31	0
62	12	39	1

##### 「効果」

3Pの実績表の通り55年度から出席者は上昇し、63年度は100名を越え会場に収容しきれない状況となった。

しかし発表件数は一向に上昇してこない。最多発表賞年6件以上という規定を下げる必要があるあるのではないか。

##### [昭和55年度]

###### 皆勤賞

星野米男 白根春夫  
吉田和正 藤村勇治  
三橋良夫

###### 精勤賞

青木脩 安田善三  
山崎隆道 成宮庄次郎

木藤素光 山崎一男  
小野寺俊

###### 最多発表賞

吉田和正 青木脩  
[昭和56年度]

###### 皆勤賞

越田逸之助 安田善三  
筒井一郎 吉田和正  
八木橋真 白根春夫

###### 精勤賞

三橋良夫 木藤素光  
山崎一男 小野寺俊  
石渡勝美 詠  
成宮庄次郎 鈴木英雄  
青木脩 藤村勇治  
養田聖次 石黒政治  
星野米男 下田繁  
小椋力 小野山利一  
林八郎

###### 最多発表賞

吉田和正 筒井一郎  
青木脩 熊田利司

###### [昭和57年度]

###### 皆勤賞

石黒政治 小椋力  
三橋良夫 藤村勇治  
佐々木富男

###### 精勤賞

小野寺俊 詠  
白根春夫 山崎一男  
筒井一郎 木藤素光  
八木橋真 成宮庄次郎  
安田善三 栗林朝光

###### 最多発表賞

筒井一郎 青木脩

[昭和58年度]

皆勤賞

三橋 良夫  
藤村 勇治  
木藤 素光

成宮 庄次郎  
小椋 力  
安田 善三

精勤賞

山崎 一男  
筒井 一郎  
桑本 真佐喜  
山崎 隆道  
小野寺 俊  
石渡 勝美  
石黒 政治  
下尾 健一

山本 きん  
星田 正美  
大田 稔  
中村 雄  
白根 春  
林八郎  
酒巻 新  
野口 友親

最多発表賞

筒井 一郎

[昭和59年度]

皆勤賞

三橋 良夫  
成宮 庄次郎  
筒井 一郎  
藤村 勇治  
小野寺 俊

安田 善三  
保谷 市蔵  
大畠 勝彦  
平井 博久

精勤賞

山崎 一男  
桑本 真佐喜  
石渡 勝美  
佐々木 富男  
石黒 政治  
山崎 隆道  
飯沼 務務  
林 八郎

木藤 素光  
白根 春夫  
山本 きん  
中村 雄  
吉田 和正  
野口 友親  
内山 喜章

最多発表賞

筒井 一郎

[昭和60年度]

皆勤賞

三橋 良夫  
藤村 勇治

山崎 一男  
筒井 一郎

八木橋 真  
安田 善三  
桑本 真佐喜  
寺坂 博

精勤賞

木藤 素光  
小野寺 俊  
石渡 勝美  
白根 春夫  
成宮 庄次郎  
保谷 市蔵  
林八郎  
岡本 義雄  
山下 馨  
永井 久男

石黒 政治  
佐々木 富男  
高橋 博

内海 宏  
佐藤 梶  
富久保  
渡辺  
石津直  
武沢 潔  
諸藤 伏  
山下 一  
永井 刀  
藤田 福  
井 ユリコ

最多発表賞

筒井 一郎 清水 正一

[昭和61年度]

皆勤賞

藤村 勇治  
寺坂 博  
大畠 勝彦  
高橋 邦子  
佐々木 富男  
遠田 仙司

精勤賞

三橋 良夫  
白根 春夫  
山本 きん  
中村 雄  
吉田 和正  
野口 友親  
内山 喜章

石黒 政治  
内海 宏  
田中 正美  
松本 喜陽  
岡本 義雄

## 5. 基礎物理学講座開講

[昭和62年度]

### 皆勤賞

桑本 真佐喜	田中 正美
寺坂 博	青柳 三好
安田 善三	林田 繁雄
中井 洋	鈴木 龍三
大畠 勝彦	武貞 瞳治
高橋 進	内海 喜代

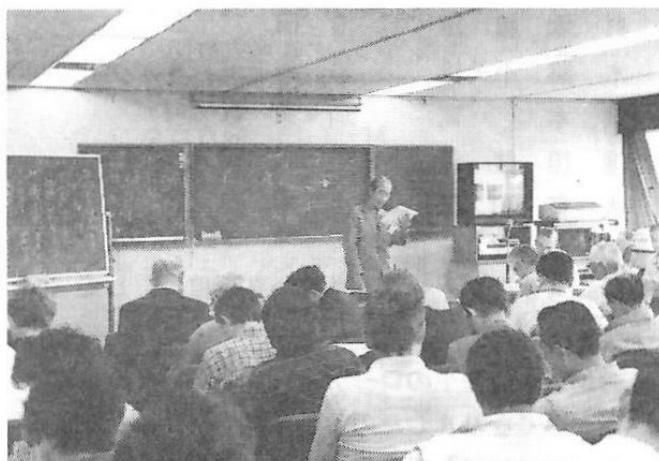
特許法では「発明」とは自然法則を利用した技術的思想の創作のうち高度なものをいう。となっている。

自分では素晴らしい発明をしたと思い込んでいても、自然法則にかない科学的なうらづけが無くてはならない。

日曜発明教室を始めてから、作品の質的向上をはかるため、かねがね科学の基礎について勉強したいと考えていたところ、横浜国立大学教授を退官された荒井文治先生から無報酬で講座を行って戴けると申し出でがありました。

渡りに船とお願いし、昭和56年9月13日第157回日曜発明教室から毎回開講していただきました。

テーマ「基礎 電機・機械の物理学」



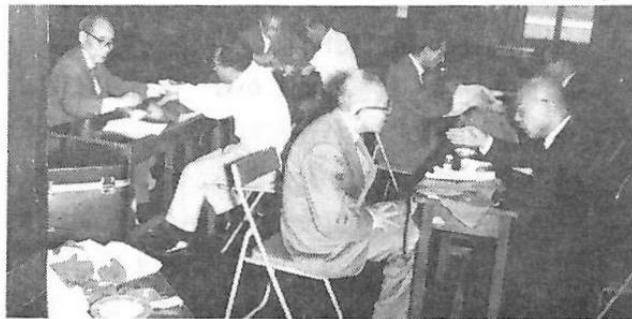
昭和62年度で65回となりました。

此の講座を契機に出席者は平均50人を越るようになり、発表内容も向上した。



## 6. 発明相談

横浜で日曜発明教室の開始が新聞等で報道されたので弁理士の先生から協力（無報酬）の申し出があり開始第1回から作品の発表と平行して発明相談を実施してきた。



### 御協力いただいた弁理士の方々

釣本義雄	池田宏
木脇不美雄	福島康文
岡本 覚	加々美敬司
堀田健藏	小野権太
大貫和保	小塙豊
松永宣行	

昭和54年度まで293件の発明相談をして戴きました。

お忙しい諸先生のローティションが崩れる事が多くなりましたので、昭和55年度からは役員で担当してきましたが、昭和61年5月から弁理士井藤誠氏に毎月担当して戴いております。



## 7. 初心者研修開始

昭和55年度から出席奨励賞制度を設けたので、個人別出席カードを作ったので統計がとり易くなった。

昭和55年度日曜発明教室出席回数表

回数	会員	一般	合計	比率%
1	16	45	61	41.8
2	9	19	28	19.1
3	5	11	16	11.0
4	6	4	10	6.8
5	5	3	8	5.5
6	5	0	5	3.4
7	2	2	4	2.7
8	3	0	3	2.1
9	3	0	3	2.1
10	2	0	2	1.4
11	0	0	0	0
12	6	0	6	4.1
合計	62	84	146	100 %

此の表で見ると1回だけの出席が圧倒的に多く3回今までで、71.9%を占めている。

この方々をもっと多く出席させることを考えることが重要であることが判った。

翌年9月から荒井先生の物理学講座が開講になり出席者は多くなったが、57年度から低下傾向となった。

色々と検討してみると、1~3回しか出席しない者は発明に関心の有る初心者が多いことがわかり、昭和59年3月から初心者のためのフリー講座を開始した。

この為日曜発明教室の開始時間を30分早め0時30分からとし今日に及んでいる。

## 初心者研修実績

### § フリー講座

187回 59-3-11 担当 三橋 良夫  
189回 59-4-8 リ 筒井 一郎

### § 初心者のための研究会

#### \* 特許制度の生い立ち

189回 59-5-13 講師 筒井 一郎  
\* ヌードカップについて

192回 59-8-12 同

#### \* 発明出願あれこれ

193回 59-9-9 講師 三橋 良夫  
リ 筒井 一郎

### § あなたが特許出願ができるまで第1回

195回～201回 6回連続

講師 三橋 良夫  
リ 筒井 一郎

#### \* 図面の描き方

202回～203回 2回連続  
講師 横地 邦男

#### \* 出願手続き

204回 60-8-11 講師 三橋 良夫

#### \* クレームの話し

205回 60-9-8 講師 筒井 一郎

### § 研究会

#### \* 小発明はここをねらえ

206回 60-10-13 講師 筒井 一郎

#### \* 優先権制度について

207回 60-11-10 講師 弁理士  
大貫 和保

#### \* 発明なんでも質問

208回・210回

60-12-8 61-2-9 担当 三橋 良夫  
リ 筒井 一郎

#### \* 水ハンダについて

213回 61-5-11 講師 三橋 良夫



### § あなたが特許出願ができるまで第2回

#### \* 特許・実用新案・意匠・商標について

216回 61-8-10 講師 弁理士  
大貫 和保

#### \* 明細書の書き方 講師 比企 秀雄

217回 61-9-14

218回 61-10-12

#### \* 図面の描き方 講師 岸村富之介

219回 61-11-9

220回 61-12-14

### § 研究会

#### \* ヒント・アイデアを発明に結実させるには

229回 62-9-13 講師 筒井 一郎

#### \* 特許出願から審判請求まで

232回 62-12-13 講師 三橋 良夫

#### \* 意匠登録のすべて

238回 63-6-12 講師 筒井 一郎

#### \* あなたも出来ますはんだ付け

239回 63-7-10 講師 寺坂 博

#### \* プラスチックで発明品を作るには

240回 63-8-14 講師 三橋 良夫

## 8. 20年間に行った研究会

### (1) 工業所有権法研究会

- § 新特許法の解説 弁理士  
33回 46-5-23 講師 大貫 和保  
§ 特許出願あれこれ 弁理士  
38回 46-10-10 講師 堀田 健藏  
§ 特許権の侵害について 弁理士  
47回 47-7-9 講師 大貫 和保  
§ 特許になる基本的条件 弁理士  
57回 48-5-13 講師 釘本 義男  
§ 特許申請用語の解説 弁理士  
59回 48-7-8 講師 堀田 健藏  
§ 工業所有権改正の動向  
78回 49-2-9 発明団体連合会  
講師 北岡 実  
§ 拒絶理由通知の処理法 弁理士  
83回 50-7-13 講師 大貫 和保  
§ 特許法改正に伴う運用基準 弁理士  
87回 50-11-9 講師 大貫 和保  
§ 工業所有権改正の現状と問題点  
139回 55-3-9 発明団体連合会  
講師 北岡 実

### (2) 発明の実施化に役立つ研究会

- § 発明商法  
72回 49-8-11 職業技能振興会  
講師 吉見 義  
§ 災害から生命財産を守るために  
82回 50-6-8 横浜市災害対策室長衛  
講師 雨宮 紋  
§ いま良く売れている家庭用品金物  
日本金物新聞社  
91回 51-3-14 講師 渡辺タカ子  
§ 新製品に強くなろう  
14回 44-10-12 講師 伊藤 甫

### § 成功する発明失敗する発明

- 27回 45-11-8 講師 清水 重一  
§ 売れるマッチの考え方映画と説明  
42回 46-2-13 講師 筒井 一郎  
§ 発明企業化の実際（発明企業化方程式）  
43回 47-3-12 講師 関 実  
§ ギフト・ノベルティー向商品  
127回 53-3-11 勝夏目社長  
講師 竹内五一郎  
§ メカニズムこぼれ話し  
131回 54-7-8 講師 金本 恒  
§ 発明これで良いのか  
134回 54-10-14 講師 中本 守  
§ 逆立ち健康法と逆立ち補助具の発明  
137回 55-1-13 講師 井上 昭二  
§ 双重触媒水素発生法  
139回 55-3-9 講師 石坂 音吉  
§ 小発明成功の条件 ヒントのつかみかた  
150回 55-2-8 講師 筒井 一郎

### (3) 発明の試作に役立つ研究会

- § 簡単に固るプラスチックス  
56回 48-4-8 国際ケミカル専務  
講師 塩崎 芳男  
§ 強力万能ハンダ・アルミット  
98回 51-10-10 日本アルミット㈱  
§ アクリル板を使用した試作の方法  
110回 52-10-9 講師 石井 一市  
§ プラスチックスの知識  
133回 54-9-9 講師 三橋 良夫

#### (4) 成功発明に学ぶ シリーズ

§ ワンタッチホッキスその他の発明

48回 48-8-13 講師 三橋 良夫

§ チェックライターの発明と企業化

ニッポー㈱社長

50回 47-10-8 講師 井上 太保

§ カンガールパンツの発明から販売まで

52回 47-12-17 講師 三浦 義満

§ クリーニングペットの発明

60回 48-8-12 講師 笹沼喜美賀

§ ペーパーナップキン折り畳機の発明

63回 48-11-11 講師 白田 達郎

§ 磁気治療器の発明と実用化

㈱サウンド社長

67回 60-11-10 講師 三木 健夫

§ 地震で閉まるポンベ用バルブ

75回 49-11-10 講師 大木 精三

§ ミミーピックの発明

84回 50-8-10 バイロ電機㈱

講師 加留部 健

§ イビキの研究

97回 51-9-12 講師 堀内 重雄

#### (5) 特許出願研究会

§ 特許出願図面の書き方

121回 53-9-10 講師 三橋 良夫

122回 53-10-8 //

123回 53-11-12 //

§ 出願明細書の書き方

162回 57-2-14 講師 大貫 和保

以上が日曜発明教室で実施してきた研究会の概要ですが、此のほかに詠さんはいろいろと新しい情報を収集し提供され、小林さん、成宮さん、三橋さん、筒井さんは豊富な発明体験を発表されました。

事務局としても豊沢先生の「発明の定石」「頭の経営学」「アイデアを引き出す法」のテープをかけたり、毎日新聞より産業映画フィルムをかりて上映したり、発明のVTRをかけたりの努力をして参りました。



## IV. 褒章受賞者講演会

### 特許制度の基礎を築いた専売特許

条例が発布されたのが明治18年4月18日なので、70周年に当る昭和30年「発明の日」として制定された。

通産省、科学技術庁、特許庁が中心となって、発明思想の高揚にをはかる運動が全国的に展開されて居る。

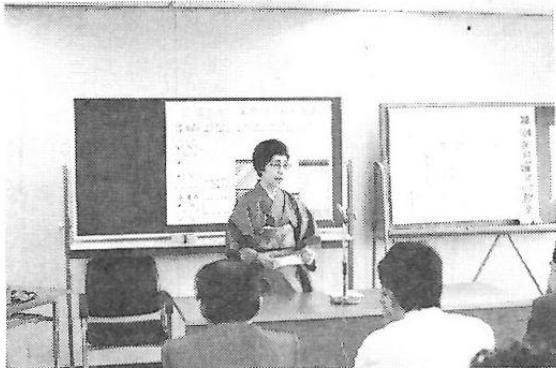
昭和52年発明で国家褒章を受けたかたがたの団体褒章くらぶのお世話をしている発明学会平井氏のご好意で、科学技術週間行事として講師を派遣して戴けるとの知らせがありました。

早速4月の日曜発明教室を科学技術週間協賛行事とし、お願ひ致しました。

以来今日まで、毎年継続しています。

### § 成功発明「和装用袋物ハイバック」について

株ヤマト屋 社長 正田 乙女  
104回 52-4-10 (55人)



### § フジバトンの発明について

株藤増総合化学研究所  
所長 藤増 次郎  
116回 53-4-9 (58人)

### § 鉄道用連絡電話の発明

旭光電気工業株 顧問 保谷 市蔵  
128回 54-4-8 (52人)

### § 波乱に富んだ発明人生

日本コルコート化学株社長 野口 雪雄  
140回 55-4-13 (46人)

### § 熱圧縮性塩化ビニールチューブの発明

都是高分子工業株 社長 桜井 正雄  
152回 56-4-12 (74人)

### § 光学機器開発の現状について

キャノン株 部長 荒 哲哉  
164回 57-4-11 (83人)

### § 豆乳の出来るまで

株精研舎 社長 小野 宗巳  
176回 58-4-10 (78人)

### § 留守番電話の発明について

橋本コーポレーション株 社長 橋本 和美  
188回 59-4-8 (91人)

### § 発明の心構え

勝倉精機株 社長 勝倉 喜一郎  
200回 60-4-14 (97人)

### § フォログラフィカメラの開発

富士写真工機株 参事 鈴木 正根  
212回 61-4-13 (122人)

### § 私の発明人生

木下理科工業株 社長 木下 義夫  
224回 62-4-12 (131人)

### § 洗剤のいらない清掃具

イノベ化成株 社長 飯野 博一  
236回 63-4-10 (122人)



## V. 100回記念行事

昭和51年12月12日で100開催となりましたので、これを記念して次の行事を行ないました。

### (1) 記念講演会

「アマ発明・プロ発明」



発明学会  
会長 豊沢 豊雄

### (2) 感謝状と記念品贈呈

詠 薫 (8年間委員長)  
山崎一男 (記録の作成)  
筒井一郎 (指導・育成)  
一之瀬喜一 (事務局担当)

### (3) 表彰状と記念品贈呈

石井一市 (最多入賞者)

### (4) 記念パーティー

豊沢 豊雄先生を囲み寿宴で開催  
出席 31名

## VI. マスコミの協力

日曜発明教室の開始に当たっては、日刊工業新聞・読売新聞・神奈川新聞の各社が記事に掲載してくれましたので、盛況に開始できました。

その後折りにふれて掲載していただきましたが、神奈川新聞では、  
〔商工往来〕最近では〔情報ネットワーク〕に毎月行事の内容を掲載していただいております。

50-9-20

△発明考案作品発表希望者募集  
横浜発明懇話会は毎月第二日曜  
午後1時から県中小企業会館で  
日曜発明教室を開いており、  
発明考案作品発表希望者を募集してい  
る。作品は(1)自分で考えたものな  
らすべてOK(自由発表)(2)災害  
から生命財産を守るためにアイデ  
ア。発表希望者は発表希望月の前  
月末までに同懇話会事務局(横浜  
市中区日本大通一、横浜市中小  
企業指導センター内 201号  
2725)へ申し込めば発表用紙  
が送られてくる。

56-4-12

△横浜発明振興会の発明講演会  
横浜発明振興会はこのほど名称  
を「横浜発明振興会」と改めた。  
また四月十八日の発明の日を中心  
とする科学技術週間にちなみ、き  
ょう十一日午後1時半5時、横浜  
朝日会館六階ホール(横浜市中区  
日本大通一五)で日曜発明教室を  
開く。このなかで去る五十年紫綬  
褒章を受章した郡是高分子工業社  
長・桜井正雄氏が「熱収縮性塗化  
ビニールチューブ製造方法の発  
明」について講演する。

昭和53年4月21日読売(記事省略)

### 豊かな暮らしへ・知恵の交換

△発明  
ブル  
試作品持ち寄り批評会も



新作品、で楽しく  
話し合う発明教室

昭和62年1月12日朝日新聞

県内の発明家たちが集まり、  
発明の発表や批評をする「日曜  
発明教室」(横浜発明振興基金主  
催)がいま、盛況だ。  
この教室は今年で二十年目、  
十一日で二百一十回目を数え  
た。毎月第二日曜日と横浜市中  
区日本大通一五の横浜朝日会館  
六階会議室に、会員や一般の発  
明家が集まり、発明品の発表と  
批評、発明に役立つ基礎物理学  
講座などを聞く。  
初めて三十人ほどの出席者だ

## 発明に熱くなってるあなた

参加者は、中学生から八代  
のお年寄りまでいろいろ。マッ  
チの意匠登録で「家が建った」と  
い人や、退職後、穴あけパンチ  
のできるホチキスを発明、事務  
機器の会社を始めた人もいる。  
県内の中小企業約三十社も加  
盟しており、特許申請のために  
初めて三十人ほどの出席者だ

## 発表や批評の教室があるよ

特許事務所の紹介なども行って  
いる。適切な助言が受けられる  
ため、身内におだてられて商品  
化し、売れずに負債をかえ込  
む、といふことも避けられる  
という。

同振興会の一之瀬喜一事務局  
長は、「日本でも、独創性をも  
つて一人一人が行動するようにな  
ってきただろうですね」と話す  
ている。この教室についての問  
い合わせは、同振興会(〇四五  
一六八一五五六六まで)

[ラジオ放送]

62-1-14 文化放送 12:18 より

神奈川情報・千代崎さん

62-1-14 日本放送 14:30 より

ハロー神奈川・斎藤さん

62-3-23 NHK FM 18:00

神奈川暮らしの話題

リポーター 西田由紀子さん

日曜発明教室のことを放送していただき、  
この会始まって以来のことでした。

## VII 基金の寄附

日曜発明教室開始後3年間は別会計で実施してきた。独立採算制を取るつもりであったが、収入が少く、会からの援助が2倍近く掛かるので、昭和48年度から会の会計に組み入れるようにした。

この頃副会長であった成宮庄次郎さんから日曜発明教室を盛んにするために、向こう5年間にわたつて毎年10万円を寄附、50万円に成れば金利6%とし3万円を日曜発明教室の運営資金に使用したら、ただし当分の間は13万円を寄附すると、申し出がありました。

昭和48年8月6日役員会を開き受諾する事としたところが、同席上で副会長の小林甲蔵さんから25万円の寄附申し出でがあった。

昭和52年度に小林さんから25万円の寄附があり日曜発明教室運営基金は100万円となつた。

その後いろいろな方から御寄付があり、合計116万円となつた。

これらの基金は全て割引債券として、金利の前払いを受け、一般会計に繰り入れ日曜発明教室運営に使用致しました。

昭和62年度までに合計723,731円となり運営に大きく貢献しました。

昭和63年6月2日副会長佐藤正美氏から100万円の寄付があり、この金利相当分で、日曜発明教室発表者に奨励賞を贈呈しています。



## VII. 発表作品の行方

日曜発明教室のメインは作品の発表ですが、発表作品を集めることが大変でいろいろな手を打ってきたことは前述の通りです。

### 20年間の発表件数

年 度	発表件数	説 明
43	54	9月より開始
44	79	
45	79	
46	46	
47	71	
48	60	
49	58	
50	55	
51	42	
52	53	
53	44	
54	40	
55	77	
56	75	
57	61	11ヶ月
58	52	〃
59	47	〃
60	65	〃
61	56	〃
62	59	〃
63	24	8月まで
合 計	1, 197	

昭和57年から毎年4月に褒章受賞者講演会を実施するようになったのと、アイデアコンクールを行うようにしたため作品発表は実施していない。

この20年間に1, 197件の発明考案作品が発表されたが、この作品がその後どう成ったかについては調査していないので計数的にはわからないが、商品化された作品はかなり多くあるものと思います。

それらの作品の中で、最近商品化が進んでいるものの一つを紹介致します。

#### 〔理想焼器〕

発明者 成宮庄次郎 氏

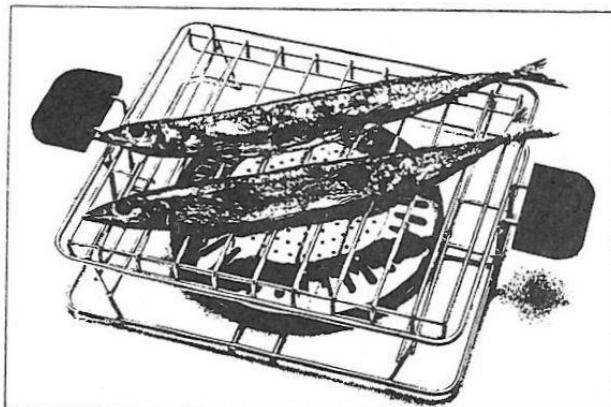
特 許 1289060

日曜発明教室発表 217回(61-9-14)

優秀賞受賞

商品化会社 煙サンゴ

社 長 佐藤 正美 氏(副会長)



多くのアイデアの中から商品化されるのは、砂礫の中からダイヤモンドを捜しあてるようなものであると、かつて横浜市長であった半井先生が云っておられた。まったくそのとおりだと思います。しかし一発ヒットは難しい、数多くのアイデアを出してこそ、その中からピカット光るアイデアが生まれるものだと思います。

発表作品の中には確かに未完成なヒント段階の作品もたまにはあります、アイデアを磨く場として日曜発明教室は役立っているものと信じております。

## IX. あとがき

皆様から原稿を戴いた中にあつと言う間に20年が立つて終ったとありましたが、私も同感です。

しかし事務局を担当している私は絶対に第2日曜日に休むことができない。スポーツの選手が試合当日に向けて体調を整えるように、私も第2日曜日にかけて体調を整えての20年でした。

昭和53年7・8・9月の3回は胆石手術のためやむをえず休みましたが、後の237回は皆勤致しております。

ビジネスとして出勤しているので、ボランティアでお世話をして戴いている世話人の方とは違いますが、我ながら健康維持に日曜発明教室が大変役立っていると感謝致しております。

私の小学校では、優等生には賞品として教科書が与えられその表紙に賞と大きな印が押されました。先生にさされて教科を読むとき目立ちます。

荒井先生のように優等生でなかった私にできることといったら休まないことでした。

皆勤賞にも印を押した教科書が与えられたからです。

小学校6年間、中学校5年間、風邪をひいて熱があっても、腹を悪くしていても休まなかった。11年間無遅刻、無欠席、無早退で通してきました。

社会人になってこんな記録に挑戦するのは止めようと思ったが、身に付いてしまった習慣は今でも変わらない。

こんな習慣がお役に立っているものと思いますが、基本は健康に恵まれていたからだと思います。

横浜発明振興会事務局を担当して28年になりますが、当初はガリ判印刷、重要なものは外注してタイプ印刷でした。日曜発明教室を始めた頃から役所にも湿式コピーが導入されアイデアブック作成が楽になった。

その後手動式の簡易タイプの中古品を入手しさるに、電動式のタイプを購入してから書類の質は大きく向上した。

しかしこれは簡易式なので活字が少なく、ニュース、総会議案、名簿等はすべてタイプ屋さんに依存していた。

発明懇話会20年のあゆみも同様でしたが、昨年ワープロを入手してからニュースはこれで作れるようになった。

今回の日曜発明教室20年のあゆみも予算の関係で、自分でワープロを打つ決心で余暇をみてはフロッピーに打ち込んできました。

編集に当たっては実績中心に、氏名を多く掲載することに心がけましたが誤記がありましたらお許し下さい。原稿を戴いた方からは、まだかまだかと催促されどうして、なんとか言い訳をしながら今日まで来てしまいました。心から詫び申上げます。

一之瀬喜一  
横浜発明振興会 事務長



